



育ちの芽

園長 安達 巡

新年、明けましておめでとうございます！

スタートカリキュラムが始まります！

3学期がスタートし、どの年齢の子ども達も、今のクラスで過ごす日が、残り3ヶ月となりました。特にこの時期の年長児は、就学に向けての期待と緊張感で、子ども達はもちろんのこと保護者の皆さんも、ドキドキワクワクされているのではないのでしょうか？そんな皆さんへの朗報と言いましょか、昨年末に『園ちょ～ブログ』にも掲載しましたが、（2019年12月1日付記事—保護者の皆さん必見です！）

いよいよこの4月より、新しい学習指導要領がスタートし、全ての小学校1年生でスタートカリキュラムが始まります！

※詳細は、【すくコム】NHKエデュケーショナル参照

特にこの番組の中で、

【Q. 2020年から小学校の教育が変わると聞きました。どんなふうになるの？】

この問いに対し、玉川大学教授（幼児教育学）大豆生田先生が、

【A. 幼児期に遊びで育てた主体性を受け、小学校はスタートします。】

と答えておられたのを観て、昨年4月に前倒しで改訂された、新幼稚園教育要領の大きなポイント、「子どもの主体性を育む保育」を目指してきた園にとっても、大きな励みとなりました。

これから学校もどんなふうに変わっていくのか？ワクワクとても楽しみです。

幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿

2学期の様々な行事を終えた昨年末、年長の各クラスに出向き、子ども達と一緒に給食を食べました。3クラスとも回ってみて、子ども達との会話の中で気づいたことですが・・・

昨年までは、「好きなテレビやゲームの話題」「家族で出かけた時の話」等が多かったように記憶しているのですが、今年はどのクラスに行っても、たとえば、

○子どもカーニバルを再現するための、様々な準備の話題であったり、

○プラネタリウムに行く道順を、一生懸命に説明してくれたり、

○「Aちゃんのお父さんは、カメラマン！」

「私のお母さんは昔、保育士のお仕事してた！」 等々・・・

現在、自分達のクラスで興味を持って取り組んでいることについて、まるで脳をフル回転させているかのように、一生懸命に伝えてくれる姿が印象に残りました。そんな様子を見ていると、各クラスで取り組むテーマは全く違っていても、幼児期に育みたい『10の姿』が（自立心・協同性・社会生活との関わり・思考力の芽生え・言葉による伝え合い、他）、一様に育まれていることが、どのクラスからも顕著に感じとることができました。

もちろん中には、自らはお話してくれない子もいましたが、こちらが話題の内容に沿って、『〇〇ちゃんは、どんなお仕事が好き？』と聞いてみると、『電車の運転手』

と、その場で他の子ども達から一切出ていなかった仕事の内容を、きちんと言葉で伝えてくれました。そんな他の友達の意見に流されたりせず、自分の意思をしっかりと持って答えてくれる様子を見て、今はまだ消極的に見えるかもしれない子ども達も、しっかりと頭と心を働かせながら、クラス活動に取り組んでいることが実感できて、とても嬉しく思いました。

知りたい！ やりたい！ やってみよう！ ～子どもの意欲を支えるために～

プロジェクト型保育が定着しつつある幼稚園では、職員室にいても、日々子ども達の『知りたい！』『やりたい！』『やってみよう！』が伝わってきます。たとえば興味のあることを、もっと深く知りたくても、保育室や図書室の絵本・図鑑等では調べきれない時には、先生と一緒に職員室まで来て、パソコンで熱心に調べている姿もよく見かけます。またそんな子ども達の熱心さから、もしかするとご家庭でも以前に比べると、子どもからの報告や会話が増えているかもしれませんね？

そこで私たち大人が、少し気をつけておきたいことは・・・

子どもが不思議に思っていること、興味を持っていることに気づいた時、それがたとえば自分のよく知っていることだったりしたら、『これは、こういうこと』『こうすれば、もっと簡単にできるよ』等と、ついつい張り切ってここぞとばかりに、教えこみたくなる気持ちに駆られる時があります。恥ずかしながら私にも、過去の子育て中にそんな経験があるのですが、親が張り切った時に限って、なぜか子どもは急に興味を失ったように・・・

「ふ～～ん」「なんや・・・」と、その場をスッと去って行った記憶もあります。

現在、子ども達が夢中になって取り組んでいること・・・時には回り道や失敗をしながらも、自分で試行錯誤しながら辿っていく道が、将来の『自ら学びに向かう力』の大きな土台となります。そのことを私たち大人はよく理解したうえで、子どもの興味・意欲・不思議に思う気持ちに、ゆったりと寄り添っていきたいものです。

本年も、どうぞよろしく願いいたします。